

日本金屬學會誌

第13卷 第4號

論 說

會長就任の辭

三 島 徳 七*

私は今回日本金屬學會々長に御推挙を受けました三島であります。非才淺學、とうていその器でないと思存しますが、幸ひ副會長をはじめ理事諸君がいつれも學識經驗に富んだ立派な方々でありますので、その熱意ある御協力和評議員並に會員諸氏の御支援によりまして、この大任を果すべく最大の努力をいたす決心であります。まだ一回も理事會を開いておりませんので、本會今後の方針などについて發言することは、どうかと存じますが、この機會に私個人の考へを一二申上げて置きたいと思存します。

世界中で人口密度の最も高い、且つ國內資源に乏しい日本は、餘裕を國外に求めようとして、無理矢理に、あせつた結果、元も子もなく叩きつけられ、せぼめられた領土の中に八千萬の同胞が、ひしめき合つて生存せねばならぬ破目に陥つてしまいました。然しながら私の信んずるところでは、日本人は元來平和を愛するものであり、又相當高い文化を持ち得る民族であります。故に今後少數の爲政者によつて誤つた方向に導かれぬように國を組織するならば、日本人も亦世界の文化に貢獻し、我が國の産業や技術が、隣邦にも世界にも有益なることは必然であると思存します。

科學の分野に就ても、わが國の科學研究狀態を詳しく調査した進駐軍本部の科學者は、數學、理論物理學、化學、微生物學及びその應用的方面で、日本の學會の位置は、相當高いことを認め且つ他の科學及び技術の方面に於ても若し適當な施設や充分な日時を與へれば、上記の分野のような業績を擧げられぬ筈がないと推察してゐます。

又終戦後アメリカから派遣された科學顧問團の人々が異口同音にいへられたことは、日本には相當立派な科學者や研究者があるが、その研究成果を産業に應用することに就ては驚く程貧弱であるとの事でありました。以上は何れも極めて意義深き忠告であつて、吾等産業に關する科學技術者の深く反省考慮すべきことでもあります。

最近經濟九原則の實行に伴い、産業の能率化が強調されるに至つた結果として科學技術の研究部門に對しても、應用研究に重點を置けとか、産業に直接關係ない基礎的研究は一時中止すべきであるといふ客觀的狀勢が強いとの聲を聞くのであります。この事は非常に重大な問題でありまして、現下の國狀に照して、科學技術の研究に従事される諸君及び産業の復興にたづさわつておられる各位に於かれましては、この際慎重に考慮して善處されるやう希望いたしますと共に、本學會自身に於きましても、その事業や活動の方針に就て、大いこの意向を取入れねばならぬ狀勢にあると思ふ次第であります。

私はこの意味に於きまして、本學會が金屬に關する研究と産業との連絡をはかることに多大の努力をすべきではないかと思存します。この一例としまして、本會の専門分科會の組織と内容を一層強化充實して、一方には重要課題の科學的研究を促進し、他方には産業技術と連絡して生産の増強品質の向上に貢獻出来るように致し度いものと念願するものであります。

要するに基礎研究に従事するものと、應用研究に従事する科學者が絶えず、産業上の技術的困難を解決するために討議協力することが、産業の進歩發達に對して最も有効であるといふことを忘れてならぬと思存するのであります。

次に一言つけ加へたいのは、本會の經濟狀態であります。本會の事業を活潑に運營するのに最も大きく影響するのは經濟上の問題であります。残念ながら、本會の現状は、この點に於て甚だよくありません。23年度の收支決算報告に依れば、非常な赤字が出てゐます。而してその主なる原因は、會費未納者が豫想以上に多かつた爲ださうです。依て私は、率直なこの事情を皆様様に申上げて本會發展のために是非會費の完納をお願いすると共に微力をつくして本會の經濟狀態を好轉せしめたいと思存します。

最後に金屬便覽の刊行に就て一言申し上げます。金屬便覽は本會の創立十周年記念事業の一つとしてかつてから會員諸君の要望に添うべく計畫されたものであります。最近いよいよ眞島前會長を委員長とする強力な編集委員會が構成されて本格的に編輯に着手しましたから必ず立派なものが出来上つて諸君の御期待に答へることと思存します。

以上簡単に會長就任の挨拶を述べましたが、會員諸氏に於かれてはわが國目下の現實を正視し、各自その職場に於て奮勵努力せられましてこの難局を突破し、われ等自らの力によつて再び獨立を獲得するよう切望して止みません。

* 日本金屬學會々長、東京大學教授